

18) 福岡県

鈴木 武（兵庫県立人と自然の博物館）・三島美佐子（九州大学総合研究博物館）
真鍋 徹（北九州市立自然史・歴史博物館）・筒井貞雄

(1) 調査への取り組み

福岡県では、2009 年に調整をして、三島と真鍋が福岡県事務局を担当することとして、2010 年本調査に合わせて、2010 年 2 月末にタンポポ調査説明会（北九州市立いのちのたび博物館および九州大学総合研究博物館）で開催した。資料配布は、関係者による配布のほか、九州国立博物館、福岡市城南区ボランティアセンター等にも協力いただいた。

実際の調査では、北九州植物友の会、北九州市立自然史・歴史博物館・自然史友の会、福岡タンポポ調査会、糸島植物友の会、県立八女高校等の協力により、1142 件のデータ（うち福岡県内は 1093 件）を得ることができた。

(2) 福岡県における結果の概要

① データの得られた地域と種類



図 1：得られたサンプルの分布

種 類		サンプル	メッシュ
在来種	カンサイタンポポ	7 6	1 9
	オオズタンポポ(仮)	1	1
	モウコタンポポ	3 9	2 1
	ソクシタンポポ	3	3
	シロバナタンポポ (うちキバナシロ)	1 5 5 (8)	1 1 5 (4)
	キビシロタンポポ	3	1
雑種を 含む外 来種	セイヨウタンポポ	4 3 0	2 5 5
	アカミタンポポ	1 2 0	8 0
	外来	1 8 2	2 6 6
県外（山口県など）		4 9	－
合 計		1 1 4 2	4 4 2

表 1：種類別のサンプル数とメッシュ数（2010 年）

図 1 は得られたデータを 3 次メッシュ（約 1 km 四方）にして表示したものである。行政界は細分した方がわかりやすいと判断して、平成の大合併以前の 2005 年のものである（以下のすべての分布図は同様である）。

福岡県内の 5121 メッシュのうち、442 メッシュでデータが得られた。メッシュごとのサンプルの最大は 27 サンプル（メッシュコード 50302390 福岡市中央区城内周辺）で、サンプル数が 1 は 237 メッシュであった。人口の多い、福岡市・北九州市周辺はかなりの密度でデータがあり、メッシュを意識して調査をしていた八女市・うきは市周辺は比較的データがそろっている。

以下は種類ごとの分布を示す。頭花 1 つでの同定である上に、同定者自身の能力不足もあり、誤同定の危険は否めない。のちに再調査が可能のようにできるだけ同定の根拠を示すとともに、分布図の根拠となった重要なサンプル番号は地名、採集者とともに表示する。

② タンポポの分布

a. 黄花在来二倍体種の分布 –カンサイタンポポ、オオズタンポポ（仮称）

花粉の形が均一にそろっていることから、在来の二倍体種として同定したタンポポの分布を図 2 に示した。西日本で代表的な二倍体タンポポであるカンサイタンポポは 19 メッシュから 76 サンプルが得られた。19 メッシュのうち 14 メッシュは福岡市中心部（中央区、城南区、南区）にまとまって存在している。他の 5 メッシュについて具体的な地名を示すと、福岡市東区香椎浜(志賀壮志 4013371)、篠栗町九州大学演習林（西尾弘子 4012292、平田・西尾 4012524）北九州市小倉北区三萩野（加藤節子 4012646）、香春町神宮院（井上タミエ 4012735）、久留米市十連寺（木庭慎治 4013109 他 2 点）である。わずかに佐賀県側ではあるが、脊振山頂の自衛隊基地周辺でも見つかっているおり（筒井貞雄 2812001 他 2 点）、福岡県側の頭花サンプルはないものの、「福岡県側にも本種が点在」と記してあるので、図 2 には示している。

筒井(1999)は、福岡市中心部にはいくつかのカンサイタンポポ群生地があることを示している。今回のタンポポ調査では、福岡市中心部以外では、カンサイタンポポはきわめてまれな存在であるとともに、公園や芝生地などで見つかっており、移入の可能性がある。福岡市中心部でのカンサイタンポポが自生であるかどうかは、今後の検討課題であり、さらに詳細な分布調査や場合によっては DNA 解析も含めた分子地理学な検討も必要かもしれない。今回のデータは、福岡県内ではカンサイタンポポはきわめて稀であるが、福岡市中央部にはカンサイタンポポがある程度の分布があり、時には大群落となっていることが示された。

次いで、北九州市小倉北区高坊で採集されたタンポポ（幡牛俊子 4012712）について言及する（図 2）。このタンポポの花粉は均一であり、二倍体と判断できた。頭花の形態をみると、総苞外片はほぼ圧着しているが、総苞外片は総苞全体の 3/4 程度の長さがある。さらに、外片の幅も 2mm を超えて、わずか 1mm 程度であるが、総苞外片の先端に角状突起があり、カンサイタンポポとは考えにくい。

こうした形態のタンポポは、山口県下関市内に多産するトウカイタンポポ類似種（タンポポ調査西日本 2010 ではオオズタンポポと仮称している）の集団で時おり見つかる。真崎博（私信）は、カンサイタンポポに似ていて、総苞外片が 1/2 以上となることでナガトタンポポ（仮称）として認識しているが、本報告書の総論で、鈴木はオオズタンポポの変異の範囲として認識している。小倉北区は地理的に下関市に近いことも加えて、本報告ではオオズタンポポ（仮称）と判断した。いずれにせよ、現地集団の変異の観察が必要であり、これも今後の課題である。

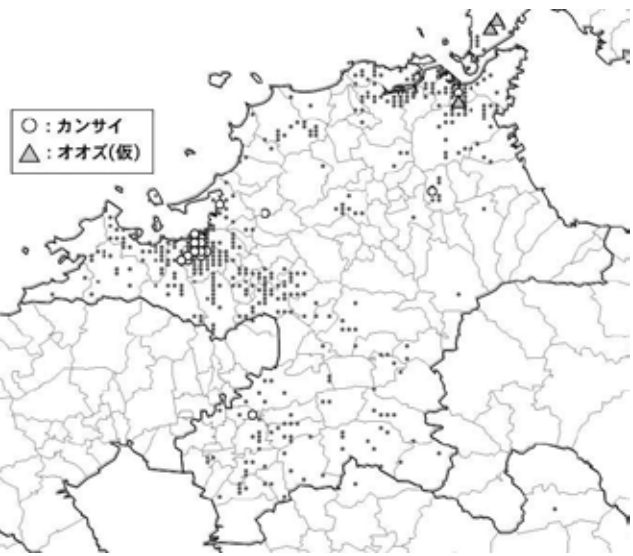


図 2：福岡県内での黄花在来二倍体タンポポの分布



図 3：小倉北区のオオズタンポポ

b. 黄花在来倍数体種の分布ーモウコタンポポ、ツクシタンポポ

Morita(1995)は九州に分布する在来の倍数体タンポポとしては、モウコタンポポとツクシタンポポをあげている。本調査では、花粉のサイズが「バラバラ」で総苞外片が圧着からやや開出しているものから、モウコタンポポは21メッシュから39サンプル、ツクシタンポポは3メッシュから3サンプルが見つかった。

時田(1997)は北九州市小倉北区および若松区でのモウコタンポポの報告をしている。今回の調査では、頭花が小型であり、総苞外片が披針形でやや開出して、総苞の1/2長以上で、先端に明瞭な角状突起のあるものをモウコタンポポとした。ただし、外片長が総苞の1/3長程度でも、明瞭に角状突起のあるものはモウコとした。モウコタンポポは北九州市戸畑区(進藤直美 4012254)・若松区(国本雅子 4012228 他7点)・小倉北区(佐方直子 4012572 他13点)・小倉南区(進藤直美 4012263)・八幡西区(加藤節子 4012657 他7点)・八幡東区(加藤節子 4012677 他1点)門司区(森本利仁 4012556 他1点)で一連の分布を示している。山口県下関市蓋井島でもモウコタンポポの報告があり(真崎、本報告書の山口県部分)、関門海峡をはさんで分布しているようである。これら以外では、福岡市南区桧原(川原順子 4012402)東区香住ヶ丘(川原順子 40124395)宗像市日の里(神田哲・美智枝 4012123)田川市田川後藤寺駅(加藤節子 4013654)があった。

今回の調査では、総苞外片は圧着して総苞の1/2長以下で、狭卵形で、角状突起はあってもごくわずかのものをツクシタンポポとして、八女市矢部村矢部(宝理信也 4013020)田川郡香春町香春岳(鈴木武 4013385)北九州市小倉北区足立(幡牛俊子 4012696)の3点を当てた。Koidzumi(1933)が原記載の際に、筑後笠原(現在の八女市黒木町笠原)を産地としており、八女市矢部村矢部は数km程度の距離である。また香春岳のツクシタンポポは関係者の間では知られおり、中島(1952)が産地としてあげている福智山にも近く、この2件は既存の分布情報と合う。ツクシタンポポは標高200-800mに分布するとしており、小倉北区足立の採集地は200m程度であって矛盾はしない。しかしながら周辺ではモウコタンポポが多数見つかっていて、時には角状突起が短く判断に迷う頭花もある。4012696は明瞭にツクシタンポポであるが、周辺の詳細は分布情報がほしいところである。

c. 白花ーシロバナタンポポ・キビシロタンポポの分布

図4には、本調査で見つかった福岡県内のシロバナタンポポ、キバナシロタンポポ、キビシロタンポポの分布を示した。中島(1952)の示す通り、シロバナタンポポは福岡県内では広く普通に分布している。シロバナタンポポに似たツクシシロタンポポも福岡県内には分布する(森田、私信)が、同定のポイントがはっきり理解できなかったため、今回の調査ではシロバナタンポポから区別しなかった。また、シロバナタンポポの黄色花の品種と考えられているキバナシロタンポポは、福岡市東区香住ヶ丘(川原弘子 4012353)糟屋町篠栗町九州大学演習林(西尾弘子 4013391 他4点)筑紫野市吉木(西尾弘子 4012489)太宰府市国府(吉田忠生 4012543)が相当するが、県内ではシロバナタンポポの集団でしばしば見いだされるらしい。

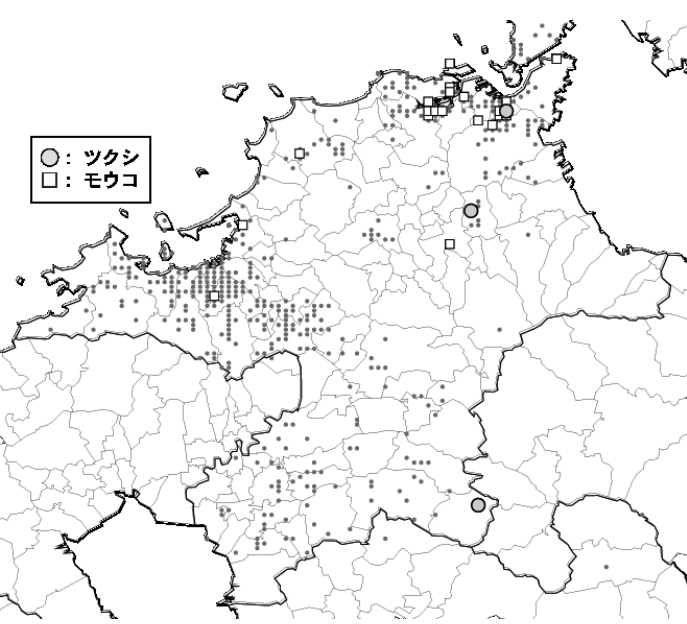


図4：福岡県内での黄花在来倍数体タンポポの分布

時田(1993)が平尾台で報告されているが、本調査ではキビシロタンポポは北九州市小倉北区平尾台(石川昭子 4012146 他2点)で採集された。平尾台には広く分布している可能性があり、同地での詳細な調査はほしいものである。キビシロタンポポは岡山県の吉備高原に多いが、中国産地および四国山地西部に分布している。山口県では秋吉台に報告があるので、これに連続する分布と理解できる。

d. 外来種とその雑種ーセイヨウタンポポ・アカミタンポポの分布

図6および図7には外部形態からのセイヨウタンポポおよびアカミタンポポの分布を示した。これら外来タンポポおよび在来二倍体種との間の雑種タンポポは形態での区別が困難であり、これらの分布図には雑種も含まれていると理解されたい。

セイヨウタンポポは広く県内に分布する。アカミタンポポは福岡市内・北九州市内などの都市部に多いように見えるが、八女市・久留米市でも点々と分布している。

福岡市中央区警固公園では、頭花の直径が6cmにもなる大型のタンポポが見つかった(筒井貞雄 4013124 他)。開花時には総苞外片はやや開出する程度であるが、種子が熟するときには大きく開出しており、神戸市六甲アイランドで見つかったロクアイタンポポ(仮称)とよく似ている。福岡市南区西長住(川原順子 4012577)筑紫野市向原(西尾弘子 4012482)もロクアイと思う。

(3) 今後の課題

福岡県内でのタンポポの種類と分布を語るには十分ではないが、熱意ある方々の協力により、意義のある情報は得られたと考える。次回の調査の際にはもっと精度の高い情報が得たいものである。

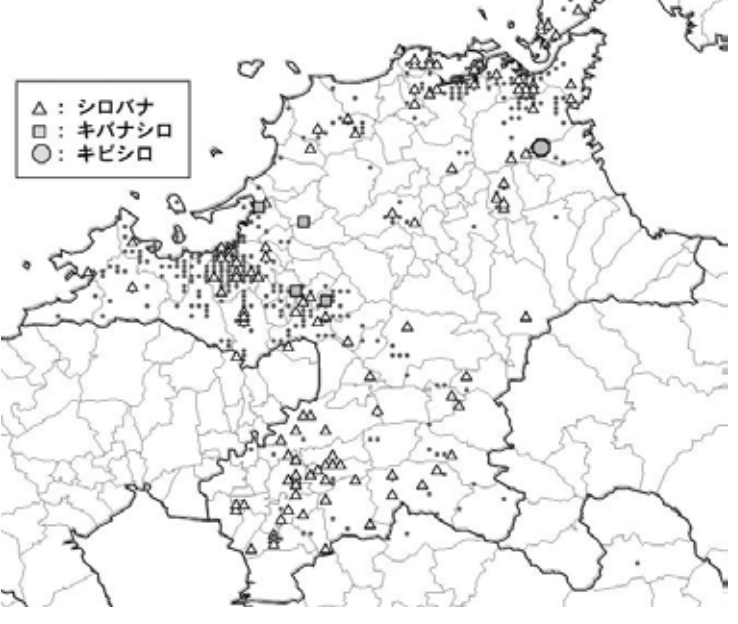


図5：福岡県内での白花系のタンポポの分布

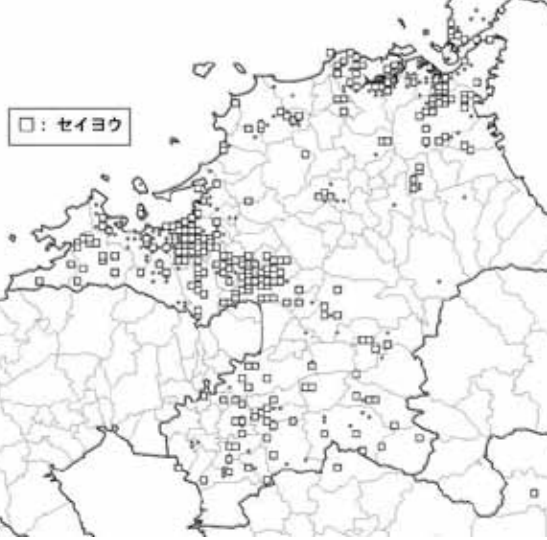


図6：福岡県内でのセイヨウタンポポ(雑種を含む)の分布

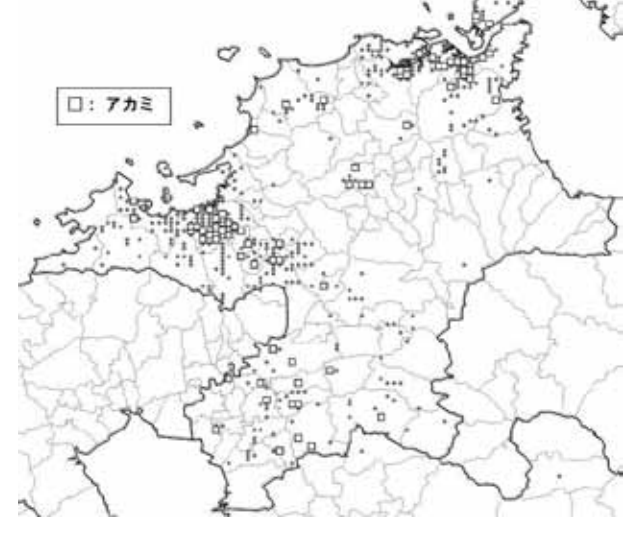


図7：福岡県内でのアカミタンポポ(雑種を含む)の分布